

創作 三恵の気持ち (1)

岐久 ようこ

隣保長が占えば 1

草難の相が出てきた

まさにその通りなのが

日課にしている30分だけの

つい家の横の「溝掃除」

2月初旬の寒い日

「今日はお鍋など温かいものもいい」

と予報士が言っていた

「いや、いずれ雨は止むはず」と

待っていたら止んだ

一輪車、クワ、カマを準備して

「草が引き易いわ」

雨で根っこが緩んでスーと抜ける

「いい案配だ」

広い三叉路で三恵は車道を意識せず

一輪車を車道の内側に置いたまま

車が避けて通過していく

「これは、いけない！」

一輪車を端に寄せていたら
大型トラックが！

カーブになっている所で

80代の三恵は尻もちついて溝に落ち込んだ

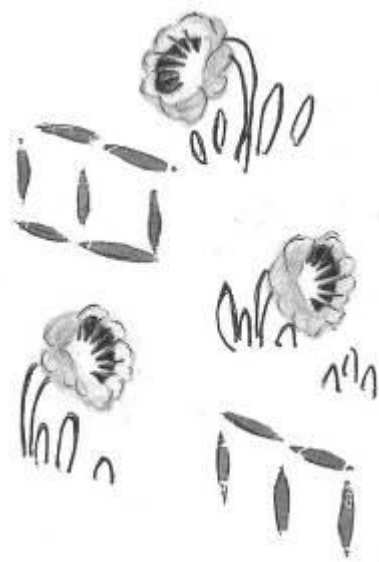
「どうともないか」降りてきた運転手

「どうともない」と答えていたが

腰に違和感があり医者へ

覚えていたのは赤や青の派手な

トラックの絵柄だけ



「草取り、やらにゃ」 2

三恵には腰痛が以前からあったが

「なんか忘れるほどや」

お世話さまなんて一言などあれば

弾みになるんだけど

むしろ勝手な事してますと

引け目でやっている

この辺り山も海も近くにない

ひょうたん形の高台

かつては馬市が競馬場があったところ

今各種イベントが開かれ

トラックの荷台を舞台に歌や踊りで賑わう

周りに46軒の建売住宅が並ぶ

今年度の役回りを

「やります」と引き受けたからには

そんな思いに飛び入り苦言が相次ぐ

この女性知らないナ

何か言い渡しに来られたか

掃除で出た刈草を

「捨てにいく事ですか？」

「夏場は軽トラ出せません」

「暑いですからね」

春、夏、秋と軽トラが無くては

周囲は草ボーボー

捨て場へどう運ぶ！

この軽トラ問題が悩みの種で

自前で借りた人もいる

エライ事になったぞ



除草剤まいてみようか 3

農家のオジサンに

「2月、農薬散布いいかな？」

「3月には稲の糶まき始まる。いまのうちに」

早速「根こそぎ」買ってパラパラ

草よ何とか応えて

「どのくらいで枯れてくれるの」

「応えられん即効性でも」

「美人の湯」と表示の温泉の素でも

肌に即効性は無いのと同じ

3月初旬の「道普請」迄あと2週間

「土も固いし根も丈夫だ」

いつも草刈機で刈るがカマで刈ってみる

「水路側はムリや」

土手下のフェンス際の方は40センチ巾ほどの狭さ

「こっち側の溝周りだけでもやろう」

長靴をはき

溝に下り腰をかがめる

2月半ばから始め、すぐ

「三恵さん、除草剤まかれてたけど」

「ああ、私を買ったものです」

「なら、いいけど」話かける人に

家に来て

「せんでもいい。皆でするから」

納得してくれそうもない人がいる

この女性ら横にも縦にも繋がる

宝塚歌劇で稽古中に

「嘘つきヤロウ！」

言っただとか言わないとか

男役へなら、ままある



「もう次々言われてコワいわ」

軽トラ、どうなっているんやろか

三恵は寢床から出そびれる

「皆んな集まってるで」呼びに来た

「コロナで中止に？」

「やるやる、早う出て」

出て見ると軽トラがあるや！

春と秋は出すが「夏だけダメ」か

草取りしたお陰もあり普通に終わる

「遅く出てすみません」の一言でも

謝ればいいのに「それどころでないわ」

溝の泥、かきあげ家に持ち帰る

毎日だったわ

次は夏の町内全域のクリーン作戦

その日迄に軽トラ用意せねば

剪定されてる業者さんに

「軽トラ、貸して」相手にされず

回覧板のついでに書いた

「かつての中国式に人海戦術でいきます」

カマー丁買ってみる

「この根切ガマでいける」

カマ20丁ゴミ袋30枚備えて

「サア」涼しい内に始まった

「オカシイ？」草取りなどしない

「今日はカンやビン拾うだけや」

知らなかった！

もし、軽トラ用意したら

ババヌキもいところ

「借りられぬのも運の内」

